

南アフリカ 東欧がアボカド需要を喚起

[FreshPlaza 2024年5月29日](#)

南アフリカの北東部とモザンビークの南部で亜熱帯作物を栽培するサンリーブド社のヨアキム・プリンスルーCEOは、「弊社のピンカートン種のアボカドは、天候によるダメージがほとんどなく、外観が非常に良くて上出来だ。アボカドの収穫は半ばであり、今はハス種で忙しい。ハス種もきれいな外観である。サイズは、入数18と20が最も多く、平均的な大きさである」と述べている。(以下「」は同CEOの発言)

ピンカートン種は、ノルウェー、東ヨーロッパ諸国、ロシアなど、アボカドを食べ始めたばかりで、バイヤーが西ヨーロッパ諸国ほど品種や大きさにこだわらない国における入門的なアボカド品種である。

プリンスルー氏は、同社のアボカド(バナナ、ショウガ、マカダミアナッツ等同社の総販売額のわずか5%に過ぎない)は、非常にうまく扱われていると言う。「弊社のアボカドはフルーツファームグループによって販売されている。アボカドに関しては、これ以上の業者はいないと思う。私の見たところ、彼らはアボカドの商売でかなり先行しており、それは価格水準だけでなく、社内の活気と南アフリカの素晴らしいアボカドチームについても言えることである。同チーム(個人名省略)は、常に生産者と連絡を取り合い、輸出業者とも連絡を切らさず、輸出業者が満足していることを確認している。」

アボカドの継続的な供給により価格が下がる

同氏は、南アフリカのアボカド生産者協会がアボカドの消費を刺激するために長期にわたって実施しているキャンペーンにもかかわらず、国内ではアボカドの消費量が昨年から拡大していないと述べている。

「輸出に関しては年々機会が増えているが、それは必ずしも他国との新たな貿易協定によるものではなく、より多くの国の消費者がアボカドを食べることに慣れてきたからだ。それは、特にヨーロッパの東側諸国である。」

しかし、国内市場の重要性が低下することはない。「弊社は国内市場を同等に重要視しているので、多くのクラス1の果実を国内で販売している。我々には、プレミアムな果実が南アフリカの国内市場にも確実に投入されるようにする責任がある。」

国内の多様な微気候の土地に果樹園がモザイク状に並んでいるため、最近の南アフリカ国内ではアボカドがほぼ周年供給されている。このアボカドの豊富さが価格も押し下げ、アボカド栽培は利益が出にくくなってきていると同氏は言う。

「ヨーロッパからは、諸経費を差し引いた金額で4kg箱当たり60ランド(3ユーロ)が入ってくる。例えば4年前に受け取った金額が経費を差し引いて1箱当たり100ランドであったことを考えると、価格は圧迫されている。これは間違いなく何ヘクタールものアボカドが植えられた結果である。」

(以下、マカダミアナッツについて省略)

執筆者: キャロライズ・ヤンセン

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)